

*The History of Dr. Kellogg and  
the Alpha of Apostasy*

# 背教のアルファ

ケロッグ博士の歴史

Revival Booklet Series No.16



リバイバルシリーズ No.16

金城マークN.D.



SUNRISE MINISTRY



# 目次

## Contents

---

---

過去の歴史における教訓	2
ケロッグ医師	3
当時の医療知識	4
セブンスデー・アドベンチストの健康改革メッセージ	8
証の書に対する疑い	15
新しいサニタリウム	17
ケロッグ医師とホワイト夫人	19
「その氷山に体当たりしなさい」	21
ケロッグ医師の脱落	22
背教のアルファ	24
背教のオメガ	26

## 過去の歴史における教訓

初めに歴代志下20章の22節を見てみたい。皆さんはヨシャパテ王の物語を覚えておられるだろうか。歴代志下20章に書かれている話である。外国から大軍が押し寄せてきて、イスラエルを攻めようとしていた。

ヨシャパテ王は敬神深い人物であり、その危機的状況の時に神に助けを求めた。神は預言者をヨシャパテのもとにつかわして、彼を励ました。15節で預言者はこのように言った。「恐れてはいけません。これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いだからである。」

勇気を得たヨシャパテ王は朝、人々に次のような言葉を語った。20節の後半に有名な言葉がある。

「あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう。」

21節を見ると、歌を歌う人たちを定めて、「主に向かって歌をうたい、かつさんびさせ、『主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない』と言わせた」とある。

22節を見ると、「彼らが歌をうたい、さんびし始めた時、主は伏兵を設け、かのユダに攻めてきたアンモン、モアブ、セイル山の人々に向かわせられたので、彼らは打ち敗られた」とある。

このように、私たちの人生に直面しているありとあらゆる敵を、私たちが賛美するときに神が、打ち破ってくださることを願うものである。

ここで、セブンスデー・アドベンチストの初期の歴史から、共に学んでいきたいと思います。スペインの有名な哲学者が「歴

史から学ぶことをしない人は歴史を繰り返すことが運命づけられている」と言っている。ホワイト夫人もこれと似たようなことを言われた。「主がこれまで私たちを導かれたことと、過去の歴史における主の与えてくださった教訓を忘れない限り、私たちは将来について恐れることは何もない」と。

アドベンチストの初期頃に、我々の教会、特に医事伝道の分野に入り込んできた致命的な教え、異端について少し学んでいきたいと思う。ホワイト夫人はこれを指して「背教のアルファ」と言った。「私たちの前に今背教のアルファがやって来ている。オメガの危険もさらに続くであろう。オメガが驚くべき性質のものとしてやってくるであろう」と。

これは1904年にホワイト夫人が言われた言葉である。



ケロッグ医師

### ケロッグ医師

この時代の歴史の背景をまず見ていきたいと思うが、上の写真はジョン・ハービー・ケロッグとい



バトルクリーク・サニタリウム

う医者である。アメリカでケロッグという名前を出したら、誰もが知っている。ただしこの人物ではなく、「ケロッグ」というコーンフレークやシリアルの子会社の名前であるが。

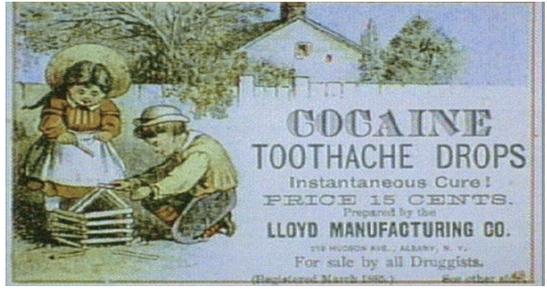
ケロッグ医師の弟であるジョン・ウィリアム・ケロッグがそのシリアルの会社を設立した。一方、ケロッグ医師はアドベンチスト初期頃の著名なセブンスデーの医者であった。彼はバトルクリーク・サニタリウムという医療施設を経営していた。それはアメリカのミシガン州にあって、世界的に有名な施設であった。ケロッグ医師は当時、セブンスデー・アドベンチスト教会全体の医事伝道の働きを取り仕切っているような立場の人であった。

最初、セブンスデー・アドベンチスト教会における健康事業の始まりはきわめて単純なものであった。下はセブンスデー・アドベンチスト教会が経営していた初期の診療所、サニタリウムである。一般の自宅を改装してサニタリウムに作り替えたものであった。このような状態で1866年から1877年までサニタリウムは運営されていた。ここでは単純なプログラムが行われていた。しかしそこでなされていた教えは、当時一般にみられていた医療の方法とはかなり違うものであった。

## 当時の医療知識



自宅を改装して作られた初期のサニタリウム



コカインのドロップキャンディー

当時、一般に行われていた医療とはどのようなものであったかを見てみよう。

当時人気があった、家庭でできる治療薬があった。歯が痛いときによく使われていたドロップ、キャンディーのようなもので、その主な材料はコカインという物質であった。それは今日、非常に危険視されている麻薬の一つである。確かに、これを口に入れると歯の痛みはなくなるが、極めて中毒性の強い薬物であった。

当時、一般に行われていた別の治療法には、ぜんそくなど気管支の病気のために使われていた揮発性の薬があったが、当時の薬には多くのアルコール分が含まれていた。またその中にはアヘンも含まれていた。確かに、こういったものを使うと咳はおさまり、気分もよくなる。

しかし、これも極めて中毒性の強い薬物なのである。裏に書かれている服用方法には、大人は一日に小さじ一杯と書かれている。覚えていてほしい。これにはアルコール分、アヘンまで入っているのである。そして生後五日しかたっていない乳児には、五滴だけ与えるようにと書いてある。

生まれたばかりの赤ん坊にも、このような薬が使われていたことが分かる。当時、子供の歯が生え始めるときの様々な症状に使われていた薬があるが、これも痛みなどを抑える薬であり、アヘンが入っていた。今日、麻薬として見なされている薬物の多くが、当時は子供用の薬のなかに含まれていた。

アメリカ合衆国の初代大統領は、ご存じのとおりジョージ・ワシントンという人であった。彼は背が高く、頑丈な人であっ



当時の薬



喘息、気管支炎のためのシロップ

た。彼は境界から引退した後には、広い農場を経営した。毎日彼の農場では奴隷たちが働いていたが、彼は毎日農場に出て行って、ちゃんと仕事がなされているか監督していた。

そして冬のある日、農場を見に行ったとき、嵐に見舞われた。雪がたくさん降ってきて、冷たい雪にさらされて体中びしょびしょになって、寒い思いをして家に戻ってきた。生涯ほとんど病気にかったことのなかった人だったので、たいしたことないだろうと、さほど気にも留めなかった。翌日、彼はまた外に出て、更なる仕事に従事した。ところが夕方頃、のどの調子がおかしくなってきた。呼吸困難を覚えた。医者と呼ばせたが、近くにいなかったので、医者が駆けつける前に、助手に命じて血を抜かせた。

当時、血を抜く治療が一般に広く行われていて、たとえば熱が出ると、頭にうっ血があるから血を抜きましようといつて、体の血を抜いていたのである。ワシントンの助手はちよつと傷をつけて、腕から血を抜いたのであるが、「これじゃ足りん。もつと大きく傷をつけろ」といつてたくさん血を抜かせたそうだ。そして二人の医者が駆け付けて、「血を抜いてますね。良い処方です」と言ったそうである。

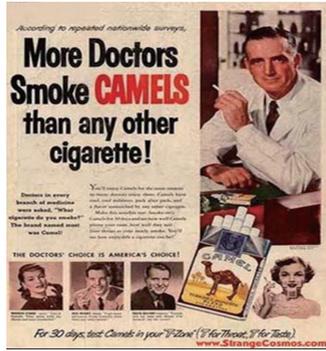
それから医者がさらに血を抜く作業にかかった。またほかにもいろんな治療を施したけれど、効果が無い。呼吸困難を覚えていたので、カプトムシのような虫をつぶしたものを湿布にしてのどにあてた。それをあてると炎症が起こって皮膚のところ赤くなるそうである。



瀕死のジョージ・ワシントン初代大統領

当時はそのような治療がなされていた。当然、うまくいかなかった。さらに年の若い医者が呼ばれて、呼吸困難があったので、気管切開をすべきだと言ったそうである。しかし年配の医者は「それは過激な方法だからやめなさい」と反対した。気管切開は過激な方法だからやめなさいと言いつつ、二人で血を抜く作業をやり続けたそうである。そしてとうとう、ワシントンの体から半分くらいの量の血液を抜いてしまったそうである。

今日誰もが、彼がその時亡くなった原因は、病気によってではなく、治療によって殺されたということが分かる。「まあそれは100年、150年前のことだから」というわけである。



タバコを奨励する医師

しかし、現在はどうかであろうか。1960年代にアメリカでこのような広告が出回っていた。ある煙草を医者たちが推薦しているという宣伝であった。50年代、60年代ではよくそういうことが行われていた。

アドベンチスト教会の初期頃、ある先駆者の一人が肺の病気にかかった時に、当時の医者がその肺の治療法として、煙草を吸うように勧めたそうである。だから当時は、セブンスデー・アドベンチスト教会の人たちであっても、この健康に関して、医学に関しての知識はかなり乏しかったということが言える。

その頃神は、セブンスデー・アドベンチスト教会に健康のメッセージ、その光をお与えになった。イザヤ60章の1節から読んでみたい。

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。」

(2節) 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

(3節) もろもろの国は、あなたの光に來、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに來る。」



バトルクリーク・サニタリウム

## セブンスデー・アドベンチストの健康改革メッセージ

当時セブンスデー・アドベンチスト教会の健康事業において、ここで描写されているようなことが文字通り起こった。当時の医療、医学界の暗闇に覆われた状態にあって、神は健康改革メッセージという、輝かしい光をセブンスデー・アドベンチスト教会にエレン・G・ホワイトを通してお与えになった。1863年に、神は初めてホワイト夫人に健康改革の幻をお与えになった。さらにジョン・ハービー・ケログという人物が現れ、初期のアドベンチスト教会において医事

伝道の事業をけん引した。彼がまだ若かった頃、彼の実家はホワイト夫妻の家の近くにあって、その頃、ジェームス・ホワイトの出版事業をよく手伝ったことがあった。そしてジェームスとエレン・ホワイト夫妻は、この青年が勤勉に働く、将来有望な若者であると感じた。

ホワイト夫妻は、彼に医者になるように勧めた。ホワイト夫妻は彼の学費も援助して、医学校を卒業できるように手伝ってあげた。医学校を卒業してからバトルクリークに戻ってきたケログは、セブンスデー・アドベンチスト教会の医事伝道事業の指導者の一人になるように任命された。

彼はエネルギーにあふれる知識に富んだ人物だったので、サニタリウムはどんどん成長していった。間もなくミシガン州、米国全土において、このバトルクリーク・サニタリウムの名が知れわたるようになっていった。そしてバトルクリークを通して神の光がありとあらゆる場所に輝いていた。当時、数人の歴代大統領もバトルクリーク・サニタリウムを訪れて治療を受けたことがあった。アメリカ中の有名人もそこに足を運び、さらにヨーロッパの貴族階級もどんどんアメリカにやって来て、このバトルクリーク・サニタリウムで治

療を受けた。

このジョン・ハービー・ケログという人物について、手短かに語るのは非常に困難であるが、彼はたぐいまれな人物であつたといえる。

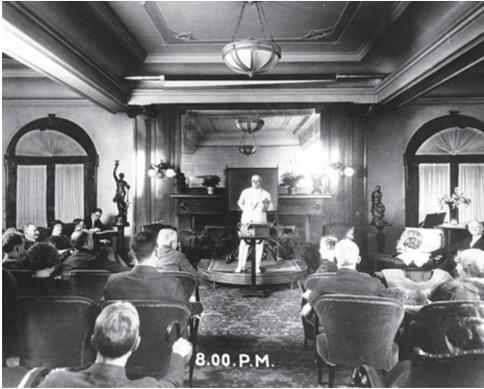
それは、彼が秘書と一緒に仕事をしている写真である。この頃も、彼は精力的にたくさんの人たちと手紙でやり取りをしていた。毎日25人に宛てて手紙を書いていたそうだが、それは単なる手短な一ページくらいのもではなくて、それぞれが小冊子くらいの厚さの手紙であつた。自分で書いたわけではなかつたが、同時に7人から8人も秘書を使って、忙しくこれらの手紙を書かせた。まず、一人の秘書に手紙の内容を口頭で伝える。そしてこれを書いている人が少し遅れ気味になつてくると、次の秘書のところに行つて、さらに別の手紙を口頭で伝える。そうやつて7、8人の秘書に同時に7、8種類の手紙を書かせるという離れ業をやつてのけた。再び最初の秘書のところに戻つてくると、「どこまで書いたっけ？」と聞くまでもなく、中断した箇所を正確に覚えていて、その続きをまた口頭で伝えたさうである。

彼は、自分が教えていることを自ら実践している人であつた。彼は毎日、運動のために自宅からサニタリウムまで自転車を通つていた。通勤中も、彼は一時の時間も無駄にしなかつた。毎日自転車で通勤するときに、秘書をつけて、その秘書は走りながら彼についていった。そして秘書にその日一日の予定を口頭で伝える。秘書は、走りながら彼の言つたことを書き留めねばならなかつた。本当に、一時も無駄にしない人であつた。

毎日夕方の時間に、彼はサニタリウムで講義をした。サニタリウム利用者たちの間で、もっとも人気のある時間だつた。講義を終えると、決まつて質疑応答の時間を設けた。これだけの人であるから、敵もいる。彼の働きをつぶそうと企んでいる連中が



秘書に手紙を書かすケログ



上：当時では最先端だった自転車で通勤  
中、下：講義をするケロッグ医師

サニタリアムに忍び込んできていて、利用者に交じって質問の時間に彼が答えられないような難しい質問をぶつけたことがあった。しかしどんな難しい科学的な質問でも、専門的な医学的な質問でも、ケロッグ医師が答えられない質問はなかったというのである。

さらに彼は国のあちらこちらに電車で出かけて行った。汽車に乗っている間は、執筆活動に没頭するのだが、今まで自分が学んだ医学書とか科学書の内容を全部覚えていて、それらの文献を参照しなくても、一度吸収した情報を正確に書き記すことが出来たそうである。驚くべき才能にあふれた人物であった。

彼はまた好奇心が人一倍強く、いろんなものを発明した。もともと有名なものがコインフレークである。彼は医学生生の



コーンフレークを発明

ら、あまり時間をかけないで簡単に栄養を補給できる食品を作れないだろうかと考えていた。彼のサニタリウムではそういった実験を行う厨房もあって、彼は弟と一緒に様々な食品を作るための実験を行っていた。グラノーラ、コーンフレーク、ピーナツバターなどの食品が発明された。

彼は太っ腹な人物で、コーンフレークなどを発明しても、特許を取ろうとしなかった。弟の方が「特許取らないとほかの人が作って売り出してしまうよ」と兄に訴えた。言われた兄は「それはいいことじゃないか！いいものがひろがるわけだから」と答えるのだった。そのサニタリウム利用者の一人に、C・W・ポストという人がいて、そこで彼はシリアルを作り方を学び、今日でも有名なシリアル会社を設立した。

か ろ こ



多くの養子を育てたケロッグ

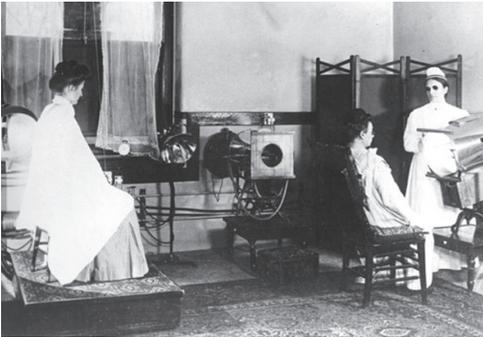
弟のウィリアムも自分でコーンフレークの会社を設立し、今日よく知られている。ケロッグ博士には実子がいなかった。しかし彼は非常に大きな家に住んでいて、たくさんの子供を養子にして育てたそうである。

ある時、光線治療に興味を持った彼は、それをサニタリウムで取り入れた。ミシガン州は北国なので、冬の日光が不足しがちであった。証の書を読んで、日光が健康にどれほど重要であるかを知り、この足りない日光の栄養を補うためにさまざまな実験を行い、どの光が一番日光の代わりになるだろうかと試行錯誤した。

当時の医学界において、彼の医療は世のそれと比べてはるかに先を行っていた。初期のころ、彼はそういういった業績のすべての栄光を神に帰した。

彼は別の医者との会話の中で、「今アメリカにおいてこのバトルクリーク・サニタリウムが一般の施設よりも5年以上も先に進んでいると評されている理由を知っているか？」と尋ねた。

「それはなぜかという、いろんなアイデアが浮



さまざまな治療器具を發明



上：タイタニック号内のジム。

下：音楽を使った体操

かんで新しい方法が見出される度に、私はすぐに聖書と証の書に戻って、それが御言葉にかつたものかどうか確かめるんだよ。そしてもし聖書と証の書の原則に矛盾しないものであれば、さらに研究を進め、問題がなければすぐに自分の治療に取り入れるんだ。そして御言葉の原則にそぐわないものを見つけたら、たといそれが些細なものであっても、私はすぐにそれを排除するんだ」と言った。

他の医者たちがどうしたらいいか、これはいいものだろうか、そうでないかと考えている間に、彼はすぐに御言葉に尋ねて、どんだん前に進んでいくことが出来たわけである。

タイタニック号という有名な船があったが、これはその船に設けられていた運動室の写真である。ここに見られる運動器具の多くが、ケロッグによって発明されたものだった。

音楽を使って運動する、たとえば日本ではラジオ体操が有名だが、音楽を使って体操するのを始めたのもケロッグだった。

彼は、非常に優秀な外科医でもあった。ちよつと見にくいかもしれないが、彼が75歳の誕生日に行った手術の様子である。彼が卓越した技術をもっていたということは、広く知れ渡っていた。そのことについてホワイト夫人が述べている個所がある。



施術中のケロググ医師

「神が天使をあなたのそばに送って、やるべきことを指導してくれていきます。天使の手があなたの手に置かれています。そしてあなたではなくイエスがあなたの道具をどのように動かすべきかを教えてくださっています」と。別の個所でホワイト夫人は次のように言っている。「重大な手術を行っているとき、あなたが神に助けを求めたときに、天使があなたのそばに立ち、彼の手が手術を執刀しているあなたの手の上に置かれているのが見えました。そしてこの手術を見ていた人たちは、あまりにも正確に手が動いて執刀しているのに驚いた。」

メイヨー・クリニックというアメリカで有名な施設があるが、メイヨーという二人の兄弟によつて設立されたクリニックであった。彼らは当時、世界的に有名な人たちだった。

ある日、この二人のうちの一人のもとに患者がやって来て、メイヨー医師がいろんな診察をした。その患者のおなかの方に手術の跡がみられた。「ああ、これはケロググ先生が執刀された手術でしょう」と言った。患者は非常に驚いた。その手術についてはまだ何も話していなかったからだ。「どうしてそれがわかったのですか?」「手術の跡が非常に細かく、正確になされているというのが手術の跡をみたらわかる。あたかもケロググ先生が自分のサインを書いたかのようにみえますよ」と答えた。

ジョン・ホプキンス病院というのもまた有名で、この病院の有名な医師がある日、バトルクリーク・サニタリアムをおとす。そのときに、ケロググ医師がいくつかの手術を同時に行っているのを見た。大体6時間くらいでいくつかの手術を終えたそうだが、それを見た後で、ホプキンス病院の医師が「生まれてこのかた、こんなに驚くべきことは見たことがない」と言った。神の祝福を受けたこのバトルクリーク・サニタリアムは華々しい繁栄を見たのである。

## 証の書に対する疑い

しかし、すべてがうまくいったわけではなかった。1800年代の終わり頃、そして1900年代初期頃に、ジョン・ハービー・ケロックと教会の関係がおかしくなっていた。

そしてその頃、ケロック医師は証の書の信憑性について疑問を抱くようになっていった。当時世界総会の総理であったG・I・バトラーという人が、興味深いことを述べている。「ほとんどすべての人は証の書が彼らの考えに沿っていると、多くの人たちは証の書に対して疑問を抱くようになる。」これは大事な点である。

もちろん証の書に書かれていることに同意できる人は、証の書を信じる事が出来る。しかし自分自身の生活の欠点とかを示されたり、けん責されたりしたら、多くの人が「ホワイト夫人は本当に預言者だったのだろうか」と疑問を持つようになるというのだ。そういった疑いに至るように、私たちも誘惑されることがあるのではないだろうか。

後にケロック医師は次のような証をしている。ホワイト夫人の息子であるW・C・ホワイトに



上：メイヨークリニック  
下：メイヨー兄弟の銅像



バトルクリーク・サニタリウムの火事

向かって次のようなことを言った。

「あなたの母上の教えに対する私の信仰は、何に基づいているかというと、彼女が基礎的な原則において正しいことを教えているからであって、それは彼女が超自然的な性質で光を与えているからではない。」

私が彼女を受け入れていたのは、神が不思議な超自然的な方法で、彼女に幻や夢を与えたからではなく、彼女が正しいことを教えていたからなのだ。と。彼がそういう立場をとっているということが、どんどん明らかとなっていく。

何年も後にホワイト夫人は、「バトルクリーク・サニタリウムは、大きくなりすぎました」と訴えた。ホワイト夫人は「多くの都市において、小さなサニタリウム、診療所をつくりなさい」と勧告していた。さらに、このようなことも語っていた。「一人の人物が、医事伝道の働き全体を牛耳ってはならない」と。

そして当時、セブンスデー・アドベンチスト教会の医事伝道事業全体を牛耳ろうとケロッグは望んでいた。その結果、ケロッグ医師と教会、ケロッグ医師とホワイト夫人の間で様々な問題が起こっていった。

そしてついに、1902年の2月18日にバトルクリーク・サニタリウムは火事で焼け落ちた。幸いなことに、その火事による死傷者は出なかった。医師や看護師たちが建物の中にいた患者全員を外に連れ出した。ところが、医師と看護師が協力してすべての患者を建物から外に連れだしたのだが、患者の中に、いつも自分のカバンの中に

財産を入れて持ち歩く人がいた。全員が救出されて、建物の外に出された後、彼はこっそり建物の中に入って行った。おそらく自分の財産を取りに戻ったのであろう。彼だけがこの火事で帰らぬ人となった。

ケロツグ医師は、アメリカの西海岸の方から汽車でバトルクリークに戻っていく途中で、この火事についての知らせを聞いた。彼はすぐに紙とペンを用意させ、テールの上で新しいサニタリアムの図面を描き始めた。ホワイト夫人も当時の世界総会も、新しいサニタリアムを小さいものにするようにと訴えた。ケロツグは「ああ、わかっています、わかっています」と答えたものの、新しいサニタリアムの青写真は彼自身が持っていて、他の誰にも見せていなかった。そしてサニタリアムが焼け落ちてから、三か月後の5月に、新しいサニタリアムの起工式が行われた。

### 新しいサニタリアム

この式典に参列した世界総会の代表者は、そこで焼け落ちたサニタリアムよりもさらに大きなサニタリアムが建設されようとしていることを知り、愕然とした。当然、この新しいサニタリアムに費やされる費用は多額なものであった。6000坪ぐらいの広さの大理石が敷かれた。建築の監督は特別にイタリアから招かれた。そしてニューヨークの有名なデザイナーによってサニタリアムで使われる家具や調度品がつけられた。出来上がった時に、ミシガン州で最も美しい建物だと評されたほどだった。1929年にそのサニタリアムが増築された。大きな塔が新たにつくられた。そしてまたもイタリアから大きな大理石が輸入された。ヨーロッパから水晶のシャンデリアが輸入された。これが新しいサニタリアムの食堂風景であるが、この食堂の中に大理石の噴水があったそうである。この噴水も、ヨーロッパから輸入されたものであった。この新しいサニタリアムは、以前とは全く違った



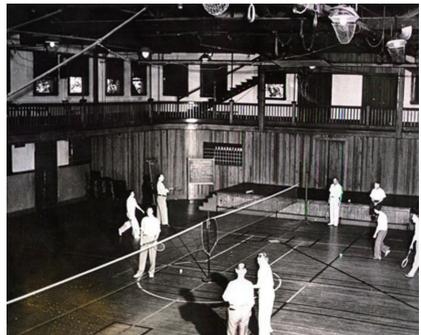
新しいサニタリアムの起工式



ものであったが。健康の原則を確かにいくつか実践していたが、屋外で運動するという健康の法則にかなった方法が、別の方法に変えられた。運動の時間がダンスパーティーのような風景に変わっていった。ホワイト夫人によると、「病気の患者さんを外に連れて行って、新鮮な空気にさらさないさい。それ自体が効果があるのである」と語っていた。

その教えを曲解して、ヨーロッパのリゾート施設のようなものを作った。さらに裕福な人が利用者として入ってきた。「屋外で運動するように、そして実用的な仕事に携わり、そういった方法で運動するように」とホワイト夫人は勧めた。しかしそれよりも多くのスポーツがここで行われるようになった。ある患者にピリヤード室も作ってくれませんかと頼まれると、その要求にもこたえ、ありとあらゆる妥協に妥協を重ねた。

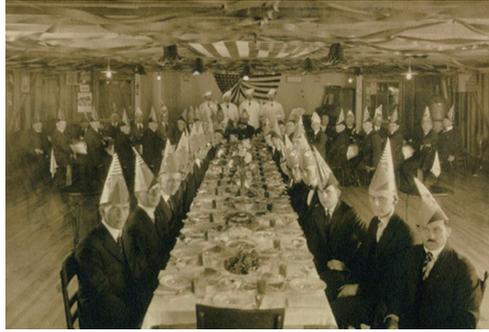
バトルクリーク・サニタリウム「メンズクラブ」なるものが結成された。これはバトルクリーク・サニタリウムの働き人たちが組織されたクラブだったそうだが、最初この写真を見たとき、フリーメイソンかKKKの集まりかと思っただけである。このサニタリウムの中で、1900年代になってから、いろんな奇妙なことが行われるようになっていった。



ホワイト夫人はこの頃ずっとケロツグ医師に働きかけ訴え続けた。息子のように思っていたので、彼にたくさんの手紙を書いた。「あなたのことでは私は心を悩ましています。あなたは自分の奇妙な道を自分でつくって行って、正しい道から他の人をもそらせてしまっています」と言った。

### ケロツグ医師とホワイト夫人

新しいサニタリウムは多額の資金を使って建てたので、その結果借金に陥った。ケロツグ医師は多くの本も執筆していて、有名になって行ったのであるが、この借金を抱えたときに本を書いてそれを売って、儲けたお金をすべてそのサニタリウムの借金に埋めます、と言った。そして世界総会はそれを喜んだのであるが、ところがその結果、彼は「生ける宮」という本を執筆した。執筆後、下刷りが回ってきて、世界総会のスタッフが回し読みをした。ほとんどの人が「いい本で



メンズクラブ

すね」と言った。ところがインドから戻ってきたばかりの一人の牧師が、その本を読んで、「この本の中には危険がありますよ」と警告した。

「ケロッグ医師はこの本で汎神論を説いています。」

教会でこのことをめぐって大議論が交わされた。しかしその議論が行われていた間、しばらくの間ホワイト夫人は口を閉ざしていた。この辺りの歴史は非常に複雑であるが、ここで私たちが学ぶべき重要な教訓がある。神はとても忍耐強くケロッグ医師に働きかけられた。ホワイト夫人は幻を通して、ケロッグ医師が危険な道に入っているといると何度も何度も見せられた。世界総会のある人たちは、ケロッグ医師に関して、大きな懸念を覚えていた。ホワイト夫人が彼のやっていることは危険だと言っているのだから、教会の人たちにも警告すべきだという人がいた。

しかし、当時ホワイト夫人はカリフォルニアにいたが、世界総会に宛てて手紙を書いて、今はその時ではないと言った。今は沈黙していなさいというわけである。そしてその当時経験したことを記録した世界総会の人がいて、この歴史の中で危険なこの時期に沈黙を保たなければならないのかと、世界総会の人たちは感じたそうである。そして彼らの心の内を読んでいるかのごとく、ホワイト夫人は更なる手紙を世界総会の人たちに送ってきた。その手紙の中で、ホワイト夫人はルシファーが天で罪を犯して反逆に至った時に、彼は罪を犯した時すぐに天から追放されなかった点に言及した。ルシファーの思想が発展していつてそれが明るみになるまで神は時間をおかれ、ルシファーに対して長く忍耐されたと書かれていた。

世界総会の責任者たちは、ホワイト夫人の二番目の手紙を見て納得した。しかし著名な牧師たち、伝道者たちが当時ケロッグ医師と喜んで一緒に働いていたので、多くの人たちは懸念し心を痛めていた。ジョーンズとワゴナーの二人も、当

時ケロググ医師と共に働いていた。

## 「その冰山に体当たりしなさい」

当時、事態を静観しているのは、世界総会の人たちにとってある意味で辛いことであった。それから間もなく、1904年にあることが起こった。

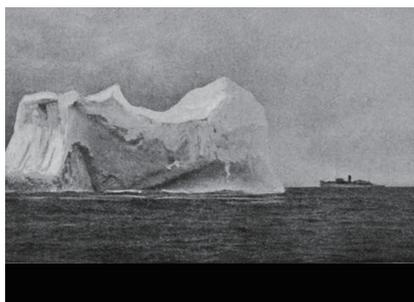
世界総会によって秋の定例総会が開かれ、事業に携わる人たち（代議員）が集まってきていた。バトルクリーク・サニタリウムについての議論が膨れ上がってしまったっており、次にどのような手段を講じるべきかということが決められずにいた。ホワイト夫人は沈黙しなさいと言ったけれども、それ以外にどうしたらいいのか彼らは分からずにいた。

すると、会議の最中にホワイト夫人からある小包が届いた。その中に、証の本がはいっており、そこに書かれていた言葉は、「今こそ私たちはこの危険に直面するときに来た」というものであった。

カリフォルニア州でどういことがあつたかと言うと、ホワイト夫人はある幻を見せられて、彼女はこの幻の中で船に乗っていた。船に乗っていたら、その船の船員が「前方に冰山が見えます」と大きな声で叫んだのだった。すると、別の声が響き渡った。「その冰山に体当たりしなさい」と。

一時の躊躇も許されない、とっさの行動が求められる時だった。

そして機関士は船を全速前進させて、舵を取る人もまっすぐ



に冰山に向かわせた。冰山に真つ向からぶつかつたら、その冰山が粉々に砕けた。雷のような音をたて、大小の氷の固まりが甲板に落ちてきた。船の客は、その衝突によつて大きく激しく揺さぶられた。しかし誰も犠牲にはならなかつた。船は傷ついたけれども、修復不能なほどではなかつた。この衝撃によつて船は大きくはねて生き物のように揺れた。しかしその後、船は前進し続けた。

この幻の意味をホワイト夫人は良く理解した。命令が下つたということだつた。船の船長からの声のようにみ声を聞いた。

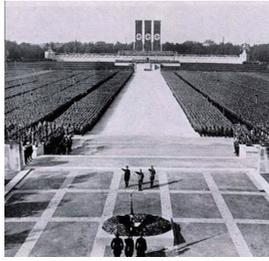
「体当たりしなさい」という声であつた。

彼女は自分の義務をよくわきまえていたので、一時も無駄にしてはならないと認識していた。決定的な行動をとるべきときがやつてきた。一時の遅れもなくこの命令に従わなければならぬ。その晩夜中の一時に目を覚まして、できるだけ早くベンを走らせて、そして次の日の朝も早くから起きて遅くまで執筆をつづけた。教会に入つてきていた誤謬についての指示を人々に与えるためにこの証を書いた。これらの指示を書き終えたときに、特別に人を雇つて特別便を送らせた。

そしてその世界總會のその時に、本当に必要な時にその小包が届いたのだつた。この時の経験を記録している世界總會のある人が、5000キロも離れたカリフォルニアにいるあの小柄な女性がどうやつて知つたのだろう。ここ世界總會でなされていることを彼女がどうしてわかつたのだろう。そしてその時に私たちが必要としているその言葉を、彼女はどうやつて書くことが出来たのだろう。これは聖靈のわざ以外の何物でもないと彼は理解した。その時の出来事のゆえに、大きな危機的状況を避けることが出来たのだつた。

## ケロッグ医師の脱落





動にまでかり立てた。医学界を先導するほどの優れた医師がどうしてこの恐ろしい運動に加わるに至ったのだろうか。マタイ6章23節にこう書かれている。

「もしあなたのうちなる光が暗ければ、その暗さはどんなであろう。」

## 背教のアルファ

神がケロッグ医師に与えられた光は、実に大きなものだった。神は彼を祝福して、セブンスデー・アドベンチスト教会の医事伝道の働きを率先して牽引する人物として選ばれた。しかし彼がその光に背いた時に、大いなる闇へと落ちてしまったのであった。

コリント人への第二の手紙11章の14節に、サタンも光の天使に偽装するのだから驚いてはならないという言葉がある。サタンを光の天使と誤ってしまったケロッグは、サタンの欺瞞に陥ってしまった。

光の天使のように美しい衣をまとった天使がケロッグ医師を伴って場所から場所へと連れて行き、神にとって不快となる傲慢な言葉を語らせた、とホワイト夫人は言った。

サタンがケロッグ医師にその霊を吹き込むほどになっていた。ネブカデネザルは、「この偉大なるバビロンは、私が建てた物ではないか」と言った。ケロッグも、「この偉大なバトルクリーク・サニタリウムは、私が建てた物ではないか」と言ったのではないだろうか。神が与えた光に基づいてこのような偉業を成し遂げたということを彼は忘れてしまったのであった。

後に彼は、フロリダ州のマイアミというところへ行き、フロリダのバトルクリーク・サニタリウムというものを建てた。数年しか存続せず、大失敗であった。自分には力があると信じていたので、どこに行っても同じやり方をすれば通用する



フロリダのバトルクリーク・サンタリウム

と思っていたのだった。しかしそれは間違いだった。

ここで申し上げたことが、背教のアルファの一部である。

しかしホワイト夫人によると、背教のオメガは驚くべき性質を帯びてやってくるはずである。サタンの最後の欺瞞は、神の御霊の証を無効にすることであるとホワイト夫人は言った。証の書を通して、神の与えられた勧告に信頼して従っている限り、彼は安全だった。ところが証の書を疑い、かれは一步一步坂道を下るようになり、闇へ落ちて行った。

ホワイト夫人によると、サタンの旗の下で自分たちの立場をとる者は、初めに神の御霊の証に含まれている警告やけん責に対する信仰を捨ててしまうであろう。どういふことかと言うと、終わりの時代に、セブンスデー・アドベンチストでありながら、サタンの旗の下で自分たちの立場をかかげる人達がいると言っているわけである。ホワイト夫人は、これは確かに起こると言った。そして彼らの最初の誤りは、神の御霊の証を疑う

ということだった。

そして証の書を疑うと聖書を疑うようになり、神の存在そのものを疑うようになる。そういった形で坂道を転げ落ちるようになり闇へ落ちてしまうのである。最初に紹介した聖句だが、歴代志下の20章20節。

「あなたがたの神主を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう。あなたがたは成功するでしょう。」

## 背教のオメガ

前半で背教のアルファについて話したが、背教のオメガについて証の書を見ると、三か所しか書かれていない。まず覚えておきたいのは、オメガが将来やってくるということ。ただしそれがなんであるか、ホワイト夫人は明言はしていない。ただし、背教のアルファについては、多くの情報を残した。だから私たちは、アルファをしっかり研究して、その時そこで何が起こったのか、どのようにしてその問題を乗り越えていったのかということを学ぶ必要があると思う。そうすることによって、私たちはオメガを識別することができるようになるわけである。その背教のオメガについてホワイト夫人が述べている三か所を見ていきたい。

オメガは驚くべき性質を帯びているであろうとホワイト夫人は述べた。驚くべきというのは、人を驚かさわけだから、予想外のことだということが分かる。だから覚えていきたいのは、どれほどオメガについて研究している人でも、実際にそれがやってきた時に、「ああ、びっくりしたなあ、こんなことになるとは。このことについては考えもしなかったなあ」と言うようなことになるということである。次の箇所だが、証の書の言葉。

「オメガが続いてやってくる、そしてそれを受け入れる人たちは、神がお与えになった警告に耳を傾けない、また傾けようとしないう人達である」と言われている。

神からの警告を受け入れようとしないう人たちがオメガを歓迎すると言っている。神からの警告を受け入れたがらない人たち、受け入れないと決める人達が、オメガを受け入れるというのだ。神から警告を与えられ、そしてその背教に対して備えるように機会が与えられたにもかかわらず、その警告を退ける人達である。証の書を通して、警告はすでに私たちに与えられているのだ。この警告に耳を傾ける意思があるか否かなのである。

ホワイト夫人がオメガについて述べたもう一カ所では、「しばらくしてオメガが続いてやってくるであろう。そして私

はわが民のために震えた」と言われている。

アルファの後にしばらくしてから、短期間の後にオメガがやってくると言っている。であるから、神の御霊の証によると、これが何十年、何百年も後の事ではないということである。そしてそのオメガがやってくることを見たときに、ホワイト夫人は民のために震えたと言ったわけである。終末の神の民にオメガの到来を幻で見せられたホワイト夫人は、どういうことになっていくかということも思った時に、本当に大変な時代がやってくると彼女は震えたわけである。背教のオメガについて彼女が述べた箇所は以上これらの3か所だけなのだけれども、アドベンチスト教会の中では、この背教のオメガがどういう形でやってくるのか、どういったものであるかということに様々な説がある。確かにこれについて研究し、オメガがどういうものであるかということをよくよく考えてみるということはいいいことだと思う。

ただし、このオメガがどのようなものであるかということをもっと明確に知ること、また断言することはできないのである。ルイス・ウォルトンという人がオメガという本を書き、有名になった。彼の考察をいくつか見ていきたいのだが、ウォルトン氏によると、「アルファ、オメガ」と言うときに、ギリシャ語のアルファベットの最初と最後の文字を使っているわけだから、アルファもオメガも似通った出来事について示したのではないかと述べている。背教のアルファにおいて、ケロツグ医師が汎神論の背教に入って行った。その汎神論という教えは神がどこにもいる、存在する。私のうちにも、木など、自然界のどこにもいるという考えであるからそれと正反対の性質のものではないかとウォルトン氏は考えているのである。

神学的に言えば、たとえば、デズモンド・フォードが提唱した神の御霊を全く無効にするような教え、特にキリストの至聖所での贖いが十字架で終わったと説き、1844年に始まることを否定するような教えではないかと考えている。ケロツグ医師は神が自分のうちにもいると考えた。デズモンド・フォードはもう神が2千年前に私の贖いの業を完成させて下さった、それだけが私に必要なものだと言った。私の内側で何が起ころうとも、神は私のためにもうすべてをして下さったというのがフォードの教えである。アルファとオメガ、こういった形で正反対の形で来るのではないかとウォルトン氏

は考えているわけである。そうかも知れないが、断定することはできない。

また別の人によると、この背教のオメガは、神は決して殺すことをなさらないという教えだという。ケロッグ医師はこの汎神論の教えによつて、神は私の内において、私にごく近い存在となつておられるという教えを説いていた。そして一方では、オメガはこういったものではないかと考える人は、私たちが死ぬときに、神は私たちのそういった死とは何のかかわりも持つておられないという考えなのである。神はいかなる理由をもつても、人を殺すことはないという考えに基づいている。

このような思想が、セブンスデー・アドベンチスト教会に入つてからも何年も経っているが、たとえば、子供用の本を書いた著者で有名な、アーサー・マックススウェルという人がいるのだが、そのマックススウェル氏もこのような思想に陥つていたと言っている人がいる。

いづれにしても、アルファは一方の極端であり、オメガはもう一方の極端な教えではないかと考える人達がいる。聖書はアルファとオメガについて何と言っているだろうか。アルファとオメガという言葉、づかいは聖書に4回出てくる。すべて黙示録に出てくる。その二か所が黙示録1章に書かれている。黙示録の1章の8節と11節である。そして興味深いことに、あとの2か所は黙示録の最後の2章に記されている。21章の6節、それから22章の13節。であるから聖書の最後のところで、この黙示録の最初の方でアルファとオメガについて神は述べられ、そして黙示録の一番最後のところでキリストが、私はアルファでありオメガであると言つておられるのである。

キリストがご自分について私はアルファであり、オメガであると述べられる時に、何か両極端の要素について述べておられるのだろうか。そうではなくて、かえつて同様のものが何らかの成熟する過程を経ているということなのだ。ヘブル人への手紙12章の2節にこのようなことが述べられている。「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎつつ」とあるが、この導き手というところは創始者とも訳される。だからこの聖句はアルファとオメガの聖句と非常に似

ているのではないだろうか。このような聖句もある。「私たちのうちに良き業を始められた方が、それを完成して下さる」。

アルファが始まってオメガで完成するという過程について、聖書は述べているのではないだろうか。だから、このアルファとオメガが正反対の性質の背教ではなくて、ケロッグ医師によって始められたものが成長して成熟した過程を表現しているものであるとしたらどうだろうか。現在オメガが、どのようなものであるかというちゃんとした理論を持っているわけではない。ただ現在私は、このオメガがアルファと全く正反対のものではないかと考えている。このアルファについて考えるときに、アルファはただ単に、神学的なものではなかったのだ。確かに神学的に見るならば、ケロッグ医師が汎神論を説いていたと言う見方が出来るのだけれども、ケロッグが行っていたことに伴って、他のさまざまなものが出てきた。たとえば教会の運営の問題、いわゆる当時、教会において、大きな権力闘争みたいなものがあった。ケロッグ医師は、王様のような権力を教会で保とうと努めていた。バトルクリークという町だけで、牧師とか他のさまざまな教会の働き人よりも、医療事業に関係している働き人の方が2倍も多かった。当時そうだった中で、大きな権力闘争があった。もちろん、ケロッグ医師がもたらした背教の一つに、神の与えて下さった青写真から離れて医事伝道を行ったというものがあつた。このオメガを見定めるにあたって、これら三つの要素が関わってくるのではないかとということが考えられるのだ。いづれにしても、この誤りの根底にあるものが神の代わりに自己を据えるということ、自分自身を神の地位に据えるということが問題なのだ。

ホワイト夫人は、サタンの最後の欺瞞は神の御霊の証を無効にすることと述べている。預言によると、この世界に起こる最後の最大の欺瞞はサタンが光の天使を装つてこの地上に現れるということである。ホワイト夫人はこのような興味深いことも言っておられる。サタンが光の天使を装つて現れる時、彼はキリストだと自称し、偉大な医事伝道者を装うと。

私はこれこそが、究極の背教のオメガであると考えている。サタン自身が偉大な医事伝道者であると自称するのである。医事伝道事業に関わらず、アドベンチスト教会には様々な背教が起こった。ケロッグ医師は彼の時代の医事伝道事業の中心的人物だったと言えるのだが、再び医療事業の何らかの著名な人、実力者、指導的立場にある人が、この教会の背教を

牽引していくことになるのではないかと考えられるわけである。そして医事伝道事業そのものが、背教へと向かってしまふことがあるのではないかと考えられるのである。なぜなら、神がホワイト夫人を通して与えられた青写真と現在教会でなされている医療事業が、かけ離れたものになってしまっているからである。

何度も言うように、背教のオメガはこう言ったものであると断定することはできないのであるが、そのことについて研究を続け、そして眼を開き、様々なヒントを基に、それがやって来た時に、神がこれこそが背教のオメガであると私たちが見定める知恵を与えて下さると思うのである。

教育の文に、「若者たちを、ただ単に人の意見を反映するのではなく、自ら考える者に訓練することこそ、真の教育である」とある。だから、他の人達が述べていることに従うことだけで満足してはいけないのである。神から助けを頂いて、自身で考えて行動していく者とならなければならない。

最後に、「この闘いは私たちだけのものではなく、神のものであるということである。「静まつて神の救いを見なさい」というみ言葉がある。

背教のオメガは、最後のキリストの贖いを無効にすることだと私は考えている。そして証の書を無効にすること。特にこの二点だと思う。

背教のアルファ -リバイバルシリーズ-

---

※頒布価格 200 円

発行 平成 26 年 6 月 23 日

著者 金城マーク

発行所 サンライズミニストリー

〒 905-0428

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

電話 0980-56-2783

FAX 0980-56-2881

Email [info@sunriseministry.com](mailto:info@sunriseministry.com)

[www.sunriseministry.com](http://www.sunriseministry.com)

---



もっと詳しく研究なされたい方のために...

## “スタディバイブル”



口語訳  
解説付き聖書  
各 10,000 円

高さ 220mm、厚さ 38mm)  
余白付大型 (幅 165mm、高さ 235mm、厚さ 38mm)

難漢字ふりがな付き。上質の合成皮革。E. G. ホワイトの注解、脚注、引照付き、地図、チャート、金のりんご、聖書語句索引、口語訳聖書の標準ページを左右余白に付記。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

info@sunriseministry.com www.sunriseministry.com



# リバイバル小冊子シリーズ

---

No. 1 安息日問答

No. 2 アピール

No. 3 装身具について

No. 4 狭き道の旅

No. 5 リバイバルと改革

No. 6 神の聖安息日の遵守

No. 7 今

No. 8 終末時代における霊の賜物

No. 9 小さな光と大きな光

No.10 預言の霊に関する指導原

No.11 サタンのわな

No.12 人類が直面している世界情勢

No.13 田舎の生活

No.14 十戒

No.15 主のぶどう園

No.16 背教のアルファ

No.17 終わりの時に備えよ

No.18 どのようにして安息日を守るか

No.19 キリスト論

No.20 救いの確証

No.21 もうひとつの箱船

